

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

日本聖公会の信徒・教役者の皆さんへ

日本聖公会正義と平和委員会
委員長 司祭 前田良彦

2003年8月15日 平和アピール

主の平和が皆さんとともに

1945年8月15日、日本は、アジア・太平洋戦争に敗北しました。この戦争によって日本は、アジア・太平洋地域の多くの人々の生命・財産を奪い、日本の市民にも、戦地や、沖縄での地上戦、日本各地の空襲、広島・長崎の原爆などで、多くの犠牲者を出しました。この悲惨な戦争が終結して、今年で58年目を迎えます。

主イエス・キリストは、引き渡される夜、主の晩餐(聖餐)を制定されました。聖パウロは「あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのである」(コリント 11:26)と述べて、わたしたちキリスト者が、主が来られるときまで、聖餐を繰り返し祝うことによって、主の死を記念し、主の死を告げ知らせる使命を負っていることを教えています。

わたしたち日本聖公会にとって、敗戦記念日である8月15日もまた、特別に記念されなければならない日です。富国強兵に努め、植民地主義、軍国主義の道を進んだ近代日本が、結果として近隣諸国と自国民に多大の犠牲を強い、ついには破滅を迎えることになったことを表している日だからです。

世界にまことの平和が実現する日まで、わたしたちはこの日を記念し、平和の尊さを人びとに訴えとともに、戦後の日本の歩みが、再び戦争の道を進むことのないように、日本社会において預言者としての務めを果たしてゆかねばなりません。

日本聖公会は、戦前、主の福音に反する国家体制や国家思想に妥協し続けてきた歴史を持っています。主イエス・キリストが小さくされた人びとのために生きられたその模範にならうことなく、強い国家に迎合し、その国家体制の中で小さくされていった人びとと共に歩むことができませんでした。

この日本聖公会の過去の歩みを懺悔し、1996年の第49(定期)総会において「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」が決議されました。「宣言」の中で、今後は「正義を行うことへ召されていることを自覚し、平和の器として、世界の分裂と痛み、叫びと苦しみの声を聴きうることのできる教会へと変えられることを祈り求め」と謳っています。

しかしこの「宣言」を決議した後の日本の歩みは、「日米新ガイドライン」「周辺事態法」「自衛隊法『改正』」「国旗・国歌法」「有事法制」「イラク特措法」などが国会を通過し、アメリカの国際戦略の中に従属する国、戦争ができる国づくりが推し進められ、自衛隊は海外に派遣され、さらにこれらの動きと関連して、小泉首相は、内外の強い批判を浴びながらも「靖国神社参拝」を繰り返しています。

戦後処理の最後の課題である北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)との関係においても、日本の過去の植民地支配や朝鮮人強制連行に対する謝罪より、日本人拉致事件のみが一方的に取り上げられ、また北朝鮮の脅威を口実に、戦争準備の政策が積極的に推進されているのが現状です。

このような状況のもとで、わたしたちは主の福音に堅く立ち、「平和を実現する人びとは、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ 5:9)との御言葉を生きてゆくことが、よりいっそう求められています。そしてこの御言葉を生きようとするとき、現在の日本社会にあって、わたしたちは少数者としての道を歩まなければなりません。少数者としての生き方をわたしたちが自覚的に選び取るとき、わたしたちは、社会の周辺に追いやられている「小さくされた人びと」や、過去の戦争で犠牲となった人びと、そして独り十字架の道を歩まれた主イエス・キリストと共に歩む道が開けて来るのです。

わたしたちが、日本社会にあって少数者として生きることの恐れを取り除かれ、平和の福音を日々生き、「平和を実現する者」とされますように、過去の戦争によって死んでいった人々の尊い犠牲の上に作られた日本国憲法が遵守されますように、共に祈りましょう。

在主